

令和4年度島根県学力調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

1 調査の概要

(1) 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

(2) 調査日 令和4年12月6日（火）

(3) 実施対象学年及び実施教科等

小学校5・6年生：国語・算数

中学校1・2年生：国語・数学・英語

※ 全対象学年に、「生活・学習意識に関する調査」を実施

(4) 用語説明

「平均正答率」 各学年・教科において、児童生徒個人が正答した問題の割合（％）を県または市町村単位で平均した値。

「全国」 本調査に参加している全国の自治体を表す。

2 浜田市・島根県・全国の平均正答率及び浜田市の島根県・全国との差

		国語	算数・数学	英語
小5	市平均正答率	65.5	53.6	/
	県平均正答率	68.4	55.6	
	市－県	－2.9	－2.0	
	全国平均正答率	72.7	60.0	
	市－全国	－7.2	－6.4	
小6	市平均正答率	65.6	58.3	/
	県平均正答率	68.0	61.2	
	市－県	－2.4	－2.9	
	全国平均正答率	74.5	71.6	
	市－全国	－8.9	－13.3	
中1	市平均正答率	56.3	46.6	48.7
	県平均正答率	58.5	52.5	51.6
	市－県	－2.2	－5.9	－2.9
	全国平均正答率	59.0	50.9	51.4
	市－全国	－2.7	－4.3	－2.7
中2	市平均正答率	62.6	43.0	45.6
	県平均正答率	65.3	45.9	49.4
	市－県	－2.7	－2.9	－3.8
	全国平均正答率	68.5	50.5	54.2
	市－全国	－5.9	－7.5	－8.6

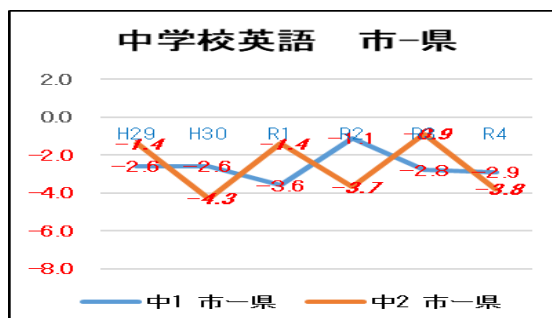
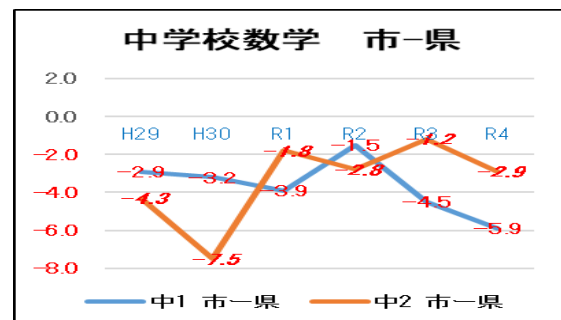
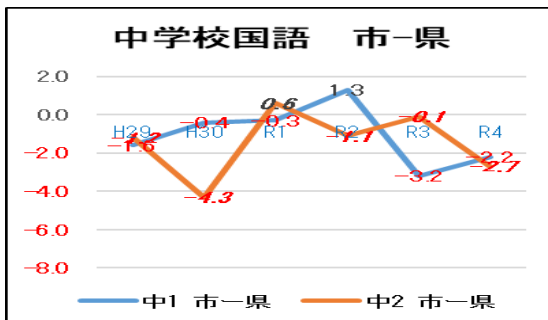
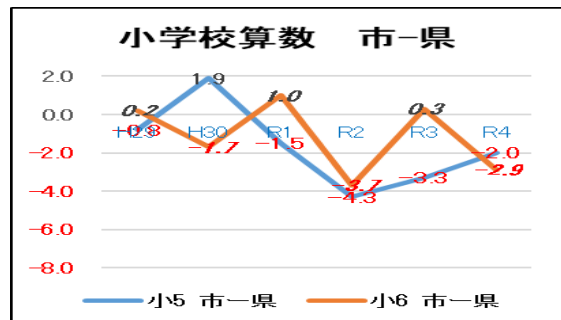
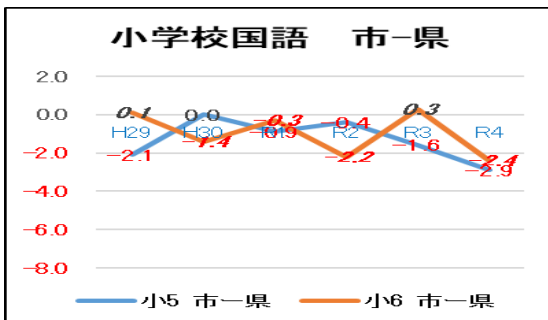
〈小学校6年生における令和4年度全国及び県学力調査の平均正答率の差〉

教科	項目	全国学力調査(4月)	県学力調査(12月)
国語	市平均正答率	60.0	65.6
	県平均正答率	64.0	68.0
	市-県	-4.0	-2.4
算数	市平均正答率	57.0	58.3
	県平均正答率	61.0	61.2
	市-県	-4.0	-2.9

3 島根県と浜田市の平均正答率差の経年比較状況

(1) 年度ごとの県平均正答率差 (○は前年度を上回り、△は下回った教科)

学年	教科	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
小5	国語	0.0	△ -0.9	○ -0.4	△ -1.6	△ -2.9
	算数	1.9	△ -1.5	△ -4.3	○ -3.3	○ -2.0
小6	国語	-1.4	○ -0.3	△ -2.2	○ 0.3	△ -2.4
	算数	-1.7	○ 1.0	△ -3.7	○ 0.3	△ -2.9
中1	国語	-0.4	○ -0.3	○ 1.3	△ -3.2	○ -2.2
	数学	-3.2	△ -3.9	○ -1.5	△ -4.5	△ -5.9
	英語	-2.6	△ -3.6	○ -1.1	△ -2.8	△ -2.9
中2	国語	-4.3	○ 0.6	△ -1.1	○ -0.1	△ -2.7
	数学	-7.5	○ -1.8	△ -2.8	○ -1.2	△ -2.9
	英語	-4.3	○ -1.4	△ -3.7	○ -0.9	△ -3.8



(2) 調査該当学年の県平均正答率差の経年比較 (○は前学年を上回り、△は下回った教科)

① 現小学校6年

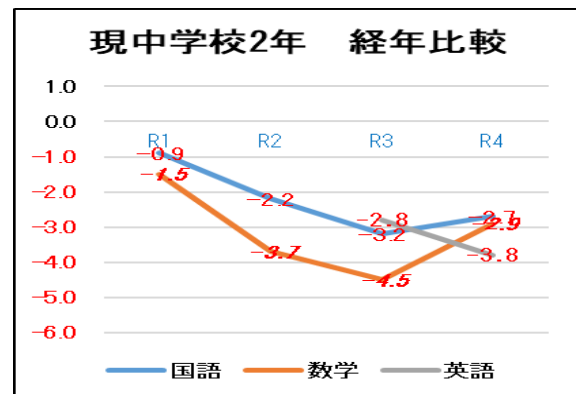
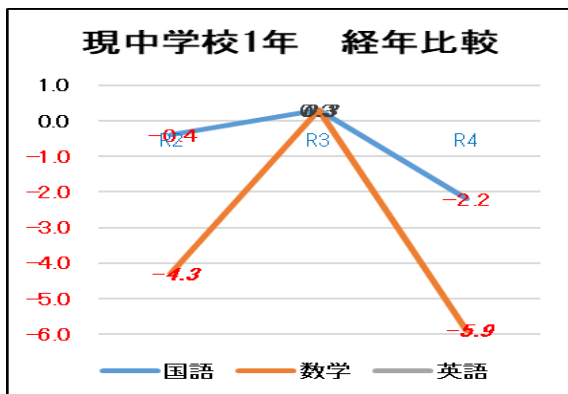
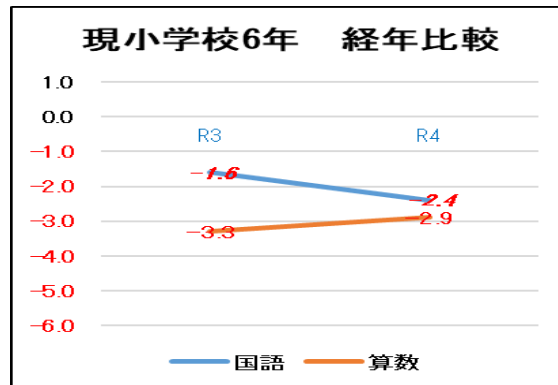
学年	教科	R3 (小5)	R4 (小6)
現小6	国語	-1.6	△ -2.4
	算数	-3.3	○ -2.9

② 現中学校1年

学年	教科	R2 (小5)	R3 (小6)	R4 (中1)
現中1	国語	-0.4	○ 0.3	△ -2.2
	数学	-4.3	○ 0.3	△ -5.9
	英語			-2.9

③ 現中学校2年

学年	教科	R1 (小5)	R2 (小6)	R3 (中1)	R4 (中2)
現中2	国語	-0.9	△ -2.2	△ -3.2	○ -2.7
	数学	-1.5	△ -3.7	△ -4.5	○ -2.9
	英語			-2.8	△ -3.8



4 各教科の状況

(1) 教科の全体的な状況について

※ここでいう「全国」とは、本調査に参加している全国の自治体を表す。

- 小学校の平均正答率について県及び全国と比較すると、国語、算数ともに下回り、課題がある。
- 小学校5年生については、県平均正答率との差が国語は-2.9 P、算数は-2.0 Pの差で課題がある。小学校6年生については、国語が-2.4 P、算数は-2.9で課題がある。
- 中学校の平均正答率について県及び全国と比較すると、国語、数学、英語ともに下回り、課題がある。
- 中学校1年生については、県平均正答率との差が国語は-2.2 P、数学は-5.9 P、

英語は－ 2. 9 Pで特に数学に課題がある。中学校 2 年生については、県平均正答率との差が国語は－ 2. 7 P、数学は－ 2. 9 P、英語は－ 3. 8 Pで課題がある。

(2) 浜田市児童生徒の平均正答率の特徴

県平均正答率と比較して上回っている設問の上位 3 設問及び下回っている下位 3 設問の状況は以下のとおりである。

① 国語

【小学校 5 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
1(1)	48.8% (+1.9)	選択	話すこと聞くこと	話し合いの内容を聞き取る	話す内容を明確にするために話し手の工夫を捉えている。
4(3)	78.4% (+0.9)	選択	読むこと	物語の内容を読み取る	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。
3(2)	22.5% (+0.1)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	連用修飾語について理解している。
2(2)①	46.0% (-10.8)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	漢字を書く	第 4 学年に配当されている漢字を正しく書いている。
3(5)	32.9% (-7.0)	短答	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。
7	44.4% (-6.6)	記述	書くこと	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。

【小学校 6 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
1(3)	78.8% (+3.0)	記述	話すこと聞くこと	インタビューの内容を聞き取る	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えている。
3(2)	85.9% (+1.8)	選択	言葉の特徴や使い方に関する事項	言葉の学習	文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。
5(2)	55.5 (+1.1)	選択	読むこと	説明文の内容を読み取る	記述を基に文章の内容を捉えている。
7	47.9 (-8.0)	記述	言葉の特徴や使い方に関する事項 書くこと	文章を書く	段落の役割について理解し、2 段落構成で文章を書いている。
7	47.1 (-5.9)	記述	書くこと	文章を書く	指定された長さで文章を書いている。
7	27.7 (-5.9)	記述	書くこと	文章を書く	予想される反論とそれに対する意見を書いている。

【中学校 1 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
3(3)	60.6 (+5.6)	短答	我が国の言語文化に関する事項	文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解している。
4(3)	59.6 (+3.9)	選択	読むこと	説明的な文章の内容を読み取る	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。
2(1)①	28.3 (+3.3)	短答	言葉の特徴や使い方に	漢字を読む	第 1 学年までに学習した漢字を正しく読

			関する事項		んでいる。
3(1)	55.3 (-10.4)	選択	言葉の特徴 や使い方に 関する事項	文法・語句に関する事項	漢字の部首について 理解している。
5(2)	57.4 (-7.2)	選択	読むこと	文学的な文章の内容を 読み取る	表現の効果について、 根拠を明確にして 考えている。
3(2)	45.3 (-6.3)	短答	言葉の特徴 や使い方に 関する事項	文法・語句に関する事項	単語について理解し ている。

【中学校 2 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
2(2)②	48.7 (+3.5)	短答	言葉の特徴 や使い方に 関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢 字を正しく書してい る。
3(4)	84.8 (+2.4)	選択	言葉の特徴 や使い方に 関する事項	文法・語句に関する事項	故事成語について理 解している。
3(3)②	94.9 (+1.5)	短答	我が国の言 語文化に関 する事項	文法・語句に関する事項	現代語訳を手掛かり に古典を読んでいる。
3(3)①	75.8 (-9.9)	短答	我が国の言 語文化に関 する事項	文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いにつ いて理解している。
2(2)③	54.4 (-8.0)	短答	言葉の特徴 や使い方に 関する事項	漢字を書く	小学校で学習した漢 字を正しく書してい る
6(3)	32.1 (-7.2)	記述	情報の扱い 方に関する 事項 書くこと	調べたことをもとにレ ポートを書く	情報と情報との関係 について理解し、読 み手からの助言を踏 まえ、自分の文章の 改善点を見いだして いる。

② 算数・数学

【小学校 5 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
9(1)	48.2% (+4.5)	選択	数と計算	小数のかけ算・わり算	小数の除法(小数÷ 純小数)の文章問題 を図に表している。
9(2)	46.6% (+3.1)	選択	数と計算	小数のかけ算・わり算	図を使って、小数の 除法の文章問題に合 った式を選んでい る。
3(2)	47.1% (+0.9)	選択	数と計算	分数と小数	分数と小数の大小比 較をしている。
12	34.5% (-7.1)	選択	図形	合同	合同な三角形を作図 できる条件を理解し ている。
2	47.4% (-7.0)	短答	数と計算	整数のなかま分け	最大公約数を適用し て問題を解決してい る。
4(1)	67.7% (-4.8)	短答	数と計算	小数のかけ算・わり算	小数第一位×小数第 一位の計算ができ る。

【小学校 6 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
12(3)	84.8% (+3.7)	短答	図形	対称な形	点対称な図形について理解し、作図することができる。
9(1)	91.1% (+1.3)	選択	図形	面積と体積	半径が与えられた円の面積を求める式を理解している。
12(2)	90.6% (+0.4)	選択	図形	対称な形	点対称な図形の対称の中心から対応する2つの点までの長さについて理解している。
1(2)	55.5% (-8.0)	選択	数と計算	分数のかけ算・わり算	分数の計算でも、分配法則が成り立つことを理解している。
3(6)	66.8% (-6.5)	短答	数と計算	分数のかけ算・わり算	帯分数×整数×真分数の計算ができる。
11(2)	57.3% (-6.0)	選択	図形	拡大図と縮図	拡大図や縮図について理解し、既習の図形を捉え直している。

【中学校 1 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
11(4)	47.8% (-0.5)	短答	関数	比例・反比例	反比例の式から、そのグラフをかくことができる。
10(1)	92.7% (-0.8)	選択	関数	比例・反比例	座標平面上の点の座標について理解している。
14(3)	60.4% (-1.4)	選択	図形	平面図形	対称移動して重ね合わせることができる三角形について、正しいものを選ぶことができる。
7(2)	28.4% (-16.0)	短答	数と式	1次方程式	分数を含む1次方程式を解くことができる。
7(1)	52.7% (-10.9)	短答	数と式	1次方程式	簡単な1次方程式を解くことができる。
5(2)	18.4% (-10.6)	短答	数と式	文字式	数量の関係を不等式で表すことができる。

【中学校 2 年生】※ () 内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
14	44.5% (+1.5)	選択	図形	図形の性質	正多角形の角の性質や、多角形の内角や外角の性質について理解し、角の大きさを求めることができる。
15(2) II	29.2% (+1.3)	選択	図形	証明	与えられた事柄から、合同な図形の性質と平行線になるための条件を判断し、証明を完成させることができる。
15(2) I	74.6% (+0.9)	選択	図形	証明	与えられた事柄から、正しい三角形の合同条件を判断し、証明を完成させることができる。
11	24.2% (-8.1)	短答	関数	1次関数	原点とある1次関数のx軸y軸との交点からでき

					る三角形について、面積を求めることができる。
12	52.1% (-8.0)	選択	図形	図形の性質	図から平行な2直線の角(同位角や錯角)の大きさについて必ずいえるものを選ぶことができる。
2(3)	20.8% (-7.2)	短答	数と式	式の計算	分数を含む多項式の計算ができる。

③ 英語

【中学校1年生】※()内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
9(2)	26.8% (+7.0)	記述	書くこと	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。
8(4)	41.1% (+6.9)	短答	書くこと	単語の並びかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(〈what+名詞〉で始まる疑問文)
5(2)①	82.4% (+3.2)	選択	読むこと	語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。
5(2)②	60.5% (-11.6)	選択	読むこと	語彙の知識・理解	英文の情報を読み取り、その内容を理解している。
5(1)①	35.9% (-9.8)	選択	読むこと	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(一般動詞の3単現の疑問文)
8(3)	23.2% (-9.0)	選択	読むこと	語彙の知識・理解	英文の情報を読み取り、その内容を理解している。

【中学校2年生】※()内の数値は、県平均正答率との差を表す

問題番号	正答率	解答形式	領域	問題の内容	出題のねらい
2(3)	62.8% (+2.3)	選択	聞くこと	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き、適切に応答している。(週末に何もすることがないと言われて)
1(1)	98.9% (+1.0)	選択	聞くこと	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(人の様子)
9(1)	29.9% (+0.2)	短答	書くこと	単語の並びかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(副詞的用法の不定詞)
5	29.3% (-9.4)	選択	聞くこと	リスニング(対話文の応答)	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている。
6(2)②	41.1% (-8.6)	選択	読むこと	語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。
11	40.8% (-8.6)	記述	書くこと	3文以上の英作文	自分の将来の夢について、その理由や説明する英文を相手に伝わるように書いている。

(3) 各教科の結果からみられる成果 (○) と課題 (▲)、考えられる指導ポイント (★)

<国語>

小学校5年生

- 出題内容別にみると、県平均正答率は、「漢字を読む」が-0.3P、「物語の内容を読み取る」が-1.4Pで下回っているが、全国平均正答率では「漢字を読む」は+1.0P、「物語の内容を読み取る」は+0.3Pと上回っている。
- 「読む」領域については、県平均正答率との差は-1.6Pであるが、昨年より2.3P縮小している。
- ▲ 領域別では、「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」に課題がある。
- ▲ 出題内容別では、「漢字を書くこと」「文章を書くこと」に課題がある。
- ▲ 問題終盤になると、無解答率が増加している。

小学校6年生

- 出題内容別では、県平均正答率の差を前年度の該当学年と比較すると、「物語の内容を読み取る」は-4.3P→-2.1P、「説明文の内容を読み取る」は-4.1P→-0.8Pとなっており、差は縮小している。
- 昨年度、業者設定の目標値と最大の差があった領域「我が国の言語文化に関する事項」では、目標値との差が-31.1P→-3.0Pと上昇している。
- ▲ 領域別では、県平均正答率との差を前年度の該当学年と比較すると、「書くこと」は、-0.7P→-5.2と低下している。
- ▲ 出題内容別では、「漢字を書くこと」「文章を書くこと」に課題がある。
- ▲ 問題終盤の記述式になると、無解答率が高くなっている。

中学校1年生

- 領域別では、「我が国の言語文化に関する事項」で県平均正答率を5.6P、全国平均正答率を6.8P上回っている。「読むこと」では、県平均正答率を-2.3P下回っているが、全国平均正答率を0.6P上回っている。
- 出題内容別では、「説明的な文章の内容を読み取る」が県平均正答率を0.4P、全国平均正答率を2.4P上回っている。
- ▲ 領域別では、「書くこと」の領域に課題がある。
- ▲ 問題終盤の記述式になると、無解答率が高くなっている。

中学校2年生

- 出題内容別では、県平均正答率との差を前年度の該当学年と比較すると、「漢字を書く」は-6.8P→+2.3P、「文章を書く」は-3.8P→-1.3Pとなっており、改善傾向は見られている。
- ▲ 領域別では、「情報の扱い方に関する事項」に課題がある。
- ▲ 漢字を書く問題や問題終盤の記述式で、無解答率が高くなっている。

★ 国語についての今後の指導ポイントとして

課題に対して必要な情報を収集して考え、根拠を明確にしながら説明をしていく力を付ける取組を強化していく。併せて、自己の考えの根拠を示しながら、一定の条件の下で記述していく力も育てていく。

これらのことに迫るために、読解力の育成を目指した指定校の取組への支援を充実するとともに、その取組の成果を各学校へ広げていく。また、図書館活用教育、調べる学習等の取組も継続していく。

また、普段の生活の中で漢字を使うようにしたり、漢字習得のための手立てを考えたりすることで、正しい漢字や文脈に沿った漢字を書く力を育てていく。

＜算数・数学＞

小学校5年生

- 県平均正答率との差は -2.0 Pであり、昨年より 1.3 P縮小している。
- 4つの領域とも県平均を下回っているが、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の3つの領域は、差が縮小している。
- 出題内容別にみると、「分数と小数」は 0.7 P、「分数のたし算・ひき算」は 0.2 P県の平均正答率を上回っている。
- ▲ 「図形」領域の「合同」については、特に課題がある。
- ▲ 問題終盤になると、無解答率が増加している。

小学校6年生

- 当該学年が5学年の時の県平均正答率との差は -3.3 Pであったが、今年度は -2.9 Pで若干の伸びは認められる。
- 調査対象領域である3つの領域とも、県平均を下回っているが、昨年度の状況と比較すると、「図形」領域で 2.0 P、「変化と関係」領域で 0.5 P縮まっている。
- 出題内容別では、「対称な形」が $+0.2$ P、「面積と体積」が -0.1 Pと県平均正答率とほぼ同率である。
- 昨年度、業者設定の目標値と最大の差があった問題「式に表された場面を読み取る」の正答率は 40.9 P \rightarrow 45.0 P（目標値との差 -19.1 P \rightarrow -10.0 P）と上昇している。
- ▲ 問題終盤での無解答率が特に増加している状況は見られないが、全般的に「回答類型外」の割合が高い状況が見受けられる。
- ▲ 「変化と関係」領域の「比と比の値」については、特に課題がある。
- ▲ 概念や性質の理解に裏付けられた基礎的・基本的な内容の習得が不十分。

中学校1年生

- 領域別の全国平均正答率との差において、図形領域では $+0.5$ Pと、全国平均を上回っている。
- 該当学年の全国平均正答率との差を経年比較すると、 -6.2 P（R3小6） \rightarrow -4.3 P（R4中1）と差は縮小している。また、中学1年生の年度ごとの比較においても、 -8.4 P（R3） \rightarrow -4.3 P（R4）と、全国との差は縮小している。
- ▲ 県平均正答率との差を前年度の該当学年と比較すると、 $+0.3$ P \rightarrow -5.9 Pと大きく低下している。
- ▲ 領域別の県平均正答率との差を見ると、「数と式」が -6.9 Pであり、最も課題が見られる。なお、この「数と式」領域の全18問では、県平均との差が -2.5 P以上となっており、そのうち3問は -10.0 P以上と差が大きく課題が見られる。

中学校2年生

- 該当学年の県平均正答率との差を経年比較すると、 -4.5 P（R3中1） \rightarrow -2.9 P（R4中2）と差は縮小している。全国平均正答率との差についても、 -8.6 P（R3中1） \rightarrow -7.5 P（R4中2）と、若干ではあるが縮小している。
- 領域別の県平均正答率との差において、「図形領域」は -0.7 Pと、ほぼ同率であった。特にその中でも「証明」の内容の正答率は、 $+0.8$ Pと、県平均正答率を上回っている。論理的な思考力が育成されつつあることがうかがえる。
- ▲ 領域別の県平均正答率との差において、「数と式」が -3.3 P、「関数」が -4.4 Pと課題である。
- ▲ 記述式の問題（3問）の無解答率の平均が 73.5% （県： 70.6% ）と、無解答が非常に多かった。

★ 算数・数学についての今後の指導ポイントとして

児童生徒自らが問題解決に向けての見通しをもち、数学的な表現を用いて筋道を立てて図

等を活用しながら説明し合う学習を重視することや、適用問題の確実な実施等の取組により、多くの問題解決体験をすることが必要である。

これらのことに迫るため、指定校の取組への支援を充実するとともに、その取組の成果を各学校へ広げていく。

<英語>

- 県平均正答率との差を、問題の内容別に見ると、「リスニング（内容理解）」、「リスニング（様々な英文の聞き取り）」、「場面に応じて書く英作文」において、中学1年生は県平均正答率を上回った。また、中学2年生においても、県平均正答率との差が-2.0P未満と、ほぼ同率である。
- 解答形式別の無解答率について、記述式以外（選択式+短答式）の無解答率は中学1年生で2.7%（県：3.0%）、中学2年生で3.5%（県3.2%）と、無解答率が低かった。
- ▲ 領域別正答率では、県平均正答率と比較して、中学校1年生の「読むこと」が-3.7P、中学校2年生の「書くこと」が-4.5Pで、それぞれ最も課題が見られた。
- ▲ 問題の内容別正答率の県との差では、「3文以上の英作文」が、中学校1年生-5.3P、中学校2年生-7.9Pと、それぞれ最も差が大きかった。
- ▲ 解答形式別の無解答率の県では、「記述式」が中学校1年生で2.9P、中学校2年生で2.8P県の無解答率よりも高く、「英文を書く」ことに課題が見られる。

★ 英語の今後の指導ポイントとして

「英語を使って何ができるようになるか」を明確にした単元ゴールを設定するとともに、目的、場面、状況を設定し、生徒が英語を使って気持ちや考えを伝え合うなどの言語活動を充実させていくことが必要である。

教科書等を読む際には、1文ずつ理解するのではなく、初見のまとまった英文から必要な情報を取り出すために、目的を持って読むなどの活動を繰り返していくことが必要である。

自分自身のことについて、また聞いたり読んだりしたことについての感想や意見のやりとりをし、その内容について、まとまった英語を書くといった領域統合の活動をしていくことが必要である。

(4) 全国学力・学習状況調査（4月実施）と県学力調査（12月実施）の比較について

比較が可能な小学校6年生の県平均正答率との差は、国語は-4.0P→-2.4P、算数は-4.0P→-2.9Pで年度内における改善の傾向は認められる。

(5) 該当学年の県平均正答率差の経年比較について

- 小学校6年生は、5年生のときの県平均正答率との差で比較すると、算数は-3.3P→-2.9Pと伸びているが、国語は-1.6P→-2.4Pと下降している。
- ▲ 中学校1年生は、小学校5年生のときの県平均正答率との差で比較すると、国語-0.4P→-2.2P、数学-4.3P→-5.9Pと下降している。
- △ 中学校2年生は、小学校5年生のときの県平均正答率との差で比較すると、国語-0.9P→-2.7P、数学は-1.5P→-2.9P、英語は中学校1年のときの-2.8P→-3.8Pと下降している。

5 生活・学習に関する意識調査の状況

(1) 浜田市総合振興計画及び教育振興計画の目標項目について

浜田市総合振興計画では評価対象学年を小学校5年生、中学校2年生としていることから、この報告では対象学年を小学校5年生、中学校2年生とした。また、浜田市教育振興計画の目標値は全国学力・学習状況調査により達成度を評価することになっているが、ここでは参考までに県学力調査結果による数値をあげている。

※数値の下線は改善が認められたもの、()内の数値は、県肯定率との差を表している

質 問 項 目	小学校5年		中学校2年	
	令和3	令和4	令和3	令和4
平日に1日あたり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしている	55.8 (+7.0)	<u>51.6</u> (+6.3)	37.2 (+0.5)	49.3 (+7.1)
平日に学校の授業時間以外に1時間以上勉強をする	49.6 (-11.2)	49.1 (-7.0)	46.8 (-4.0)	42.6 (-4.8)
家で自分で計画を立てて勉強をしている	58.0 (-10.3)	<u>65.0</u> (-0.9)	67.4 (-0.9)	62.3 (-4.9)
将来の夢や目標をもっている	76.3 (-4.1)	<u>76.8</u> (-2.4)	63.3 (-4.2)	<u>68.7</u> (+4.5)
自分には良いところがあると思う	68.1 (-1.7)	63.1 (-6.0)	65.3 (-5.0)	<u>72.1</u> (+3.1)
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	36.1 (-11.6)	<u>40.2</u> (-5.5)	37.5 (-6.2)	36.4 (-5.3)
総合的な学習の時間では集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる	49.9 (-12.0)	<u>59.6</u> (-0.9)	70.0 (-1.2)	62.3 (-8.1)

① 小学校5年生

前年度の調査における県肯定率との差では、「自分には良いところがあると思う」について-1.7P→-6.0Pと広がっているが、他の項目については差が縮小している。

② 中学校2年生

前年度の調査における県肯定率との差では、「将来の夢や目標をもっている」は-4.2P→+4.5P、「自分には良いところがある」は-5.0P→+3.1P、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」は-6.2P→-5.3Pで改善が認められるが、他の項目については差が広がっており課題である。

(2) 重視している項目について

※()内の数値は、県肯定率との差を表している

質 問 項 目	小学校		中学校	
	5年生	6年生	1年生	2年生
平日に1日あたり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしている	51.6 (+6.3)	51.7 (+5.7)	42.8 (+0.3)	49.3 (+7.1)
平日に学校の授業時間以外に1時間以上勉強をする	49.1 (-7.0)	58.5 (-3.0)	54.2 (-4.0)	42.6 (-4.8)
家で自分で計画を立てて勉強をしている	65.0 (-0.9)	64.8 (-4.2)	60.5 (-6.7)	62.3 (-4.9)
先生は家庭学習についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントしたりしてくれる	74.3 (+1.1)	78.4 (+1.3)	70.0 (-0.1)	73.8 (+6.1)
1日に30分以上読書をする	37.1 (+0.7)	30.6 (-0.4)	23.5 (-3.8)	25.9 (-2.0)
学校図書館を使った授業は、ほかの授業を行うときにも役立つ	61.2 (+0.9)	54.5 (-5.1)	48.8 (-2.4)	48.2 (+0.3)
勉強に図書館を利用している	15.3 (±0)	15.4 (+5.2)	15.5 (+2.0)	17.7 (+4.2)
今年度の授業でコンピュータ・タブレットなどのICTを週3回以上使用した	47.8 (-1.6)	52.0 (-8.3)	16.1 (-16.0)	18.9 (-16.9)

① メディアについて

- 「平日に1日あたり2時間以上テレビ、ビデオ、DVDを見たり聞いたりしている児童生徒の割合（勉強のためやテレビゲームを除く）」は、県の割合との差が中学校1年生は+0.3Pでほぼ同率であったが、小学校5年生は+6.3P、6年生は+5.7P、中学校2年生は+7.1Pであり、接触時間が多い。

小学校6年生については、4月実施の全国学力・学習状況調査の県肯定率と比較すると+6.5P→+5.7Pとなっており、若干ではあるが差は縮小している。

② 家庭学習について

- 「平日に学校の授業時間以外に1時間以上勉強をする児童生徒の割合」は、県の割合との差が小学校5年生は-7.0P、6年生は-3.0P、中学校1年生は-4.0P、2年生は-4.8Pと下回っている。

小学校6年生については、4月実施の全国学力・学習状況調査の県肯定率と比較すると-10.6P→-3.0Pとなっており、差は縮小している。

- 「先生は家庭学習についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしてくれたりしてくれる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校5年生は+1.1P、6年生は+1.3P、中学校1年生は-0.1P、2年生は+6.1Pで、ほぼ上回っている。

③ 読書及び学校図書館活用について

- 「1日に30分以上読書する児童生徒の割合」は、県の割合との差が小学校5年生は+0.7P、6年生-0.4Pでほぼ同率であるが、中学校は1年生-3.8P、2年生-2.0Pと下回っている。

小学校6年生については、4月実施の全国学力・学習状況調査の県肯定率と比較すると-2.5P→-0.4Pと差が縮小している。

- 「学校図書館を使った授業は、ほかの授業を行うときにも役立つと捉えている児童生徒の割合」は、県の割合との差が小学校5年生は+0.9P、中学校2年生は+0.3Pと上回っているが、小学校6年生は-5.1P、中学校1年生は-2.4Pと下回っている。

- 「勉強に図書館を利用している児童生徒の割合」は、県の割合との差が小学校5年生は±0Pで同率であるが、6年生は+5.2P、中学校1年生は+2.0P、2年生は+4.2Pと上回っている。

④ ICTを活用した授業について

- 「今年度の授業でコンピュータ・タブレットなどのICTを週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合は、県の割合との差が小学校5年生は-1.6P、6年生は-8.3P、中学校1年生は-16.0P、2年生は-16.9Pと下回っている。

小学校6年については、4月実施の全国学力・学習状況調査の県肯定率と比較すると-2.7P→-8.3Pとなっており、差が開いている。

6 今後の対応

- 教師の授業力向上に向かい、全ての小中学校への学校訪問指導を複数回実施する。その際、以下の点を重視しながら授業改善プランとして示す「子どもの声でつくる授業」に基づき、授業構想段階から関わることで校内研究や授業者への支援となる学校訪問としていく。

- ・ 子どもが問いを見いだしたり連続させたりしていくための取組
- ・ 子どもの解決に向かった話し合いを充実していくための教師のコーディネート
- ・ 個々の問題解決時間及び問題解決量の在り方（時間と量）

「協調学習」「図書館活用教育」の取組を柱とした教師の授業力向上に向けた取組も継続する。

- 国語を要とした読解力の育成及び小学校算数の授業改善について、指定校の取組を核としながら推進し、成果を各学校へ広げていく。特に算数・数学については、算数アドバイザーの環太平洋大学 前田教授の指導を生かした実践が各学校へ広がるようにする。
そして、限られた時間の中で多くの情報の中から課題を解決するために必要な情報を収集して考え、根拠を明確にしながら筋道を立てて表現（文章、式、図、言葉による説明など）する力を育てていく。
- 家庭学習の時間、メディア接触については、依然として課題がある。今年度は、家庭学習時間確保や児童生徒自身が日々の家庭学習の計画を立てて振り返りを行う取組が各学校に広がってきている。この取組を充実していくことにより、児童生徒自らが家庭で過ごす時間についてコントロールする力を育成していくことを目指して、「家庭学習時間の確保」「メディア接触時間の適正化」、「読書時間の確保」等につなげていく。小中連携教育やP T A活動との連携を深めるなどの取組を継続して、保護者への啓発も強化していく。
- 「ICTを活用した授業改善指定校」の取組を継続し、授業における一人一台端末の効果的な活用の在り方を各学校に広げる。併せて、I C T機器を活用した授業実践の好事例を授業実践例として公開することも継続する。
また、今年度作成をした「情報活用能力育成チェックリスト」を活用し、学年段階に応じた情報活用能力育成についての進捗状況を確認しながら、I C T機器の活用を含めた情報活用能力育成への取組を進めていく。
これらのことにより、児童生徒一人一人の学習状況に応じた個別学習の充実や児童生徒同士が考えを共有し話し合いを深めていく授業の実現を目指していく。
- 授業の質を向上させ、学力を育成していくためには、学校、学級が「安心、安全で信頼できる場」であることが欠かせない。「学級づくり」等の取組を各学校が組織的に取り組んでいけるように支援をしていくことに努める。